

関連項目：指導体制プラン②、教育活動プラン③、④

## 共に学びを創る ～組織を生かした生徒指導体制の確立とその実践～

### 目的

本校の学校教育目標は、「自立への教育」である。また、生徒指導上の重点課題は、「挨拶」「言葉遣い」「清掃」である。これら3つの力について、年間を通して段階的、組織的に育てていきたいと考える。そして、学校教育目標とこれら3つの重点項目をつなぎ、すべての学年が同一方向に、核になる重点については共通理解に基づく指導ができるようにする。

### 内容

#### ● 時と場に応じた挨拶を

全校で挨拶運動を進めるにあたって、初めの意味付けを大切にしたい。それは、「なぜ、あいさつをするのか。」「あいさつをすると、どんなよいことがあるのか。」などを意識しないまま、挨拶をしている場合が少なくない。

私たちの学校では、「なぜ、あいさつをするのか。」といった意味付けを大切にするために、生徒指導主任が話をし、その話の内容を各学級に持ち込んで担任が動機付けをするようにしている。

正門前の挨拶だけでなく、「いつでも」「どこでも」「誰にでも」「進んで」挨拶ができるよう、心がけてきた。そして、「おはようございます」だけではなく、時と場に応じた挨拶ができるよう、あらゆる機会を活用して価値付けを行っている。



#### ● 自己をみがく場となる清掃に

清掃がきちんとできることは、その学校の安定度を測るバロメーターにもなっている。そこで、「なぜ、掃除をしなければいけないのか。」「掃除って、どんな良さがあるのか。」などを、清掃担当を中心に教職員で話し合い、全校集会で子どもたちに伝えている。清掃の意味付けについてはいろいろな解釈ができるが、本校では、次のように考えている。

- ・自分が使った教室や運動場だから、掃除をするのは当たり前である。自分の部屋を片付けるのと同じ意味がある。
- ・学校はみんなが使っている所だから、自分の部屋以上に毎日する必要がある。
- ・掃除をきちんとしていると、心の整理もきちんとしてできるようになり、自己を見つめられるようになる。・・・などなど



#### ● 気持ちよい言葉遣いを

言葉は、気持ちや考えを伝えるための大切な手段である。その使い方によって、相手をいい気持ちにさせたり、嫌な気持ちにさせたりする。みんなが楽しい学校生活にするために、「言葉の力」は大きい。

そこで、「言葉の力」について考えさせるとともに、気持ちのよい経験などを全校生に紹介する場づくりに努めた。また、あらゆる機会を使って話し方や言葉の使い方のモデルを紹介するようにした。すると、次第に言葉遣いを意識するようになった。



### 成果

あらゆる機会や場を通じて、子どもたちに「なぜ、そうしなければいけないのか。」「どうして、大切なのか。」など、意味付けと、実践段階での価値付けを大切にしてきた。この意味付けと価値付けを大切にすることで、指導の共通化が図れると同時に、自分の成長を実感する子どもが増えてきた。アンケートでも、1学期の時に比べて3学期では5ポイント程度良くなってきている。組織で取り組む生徒指導を確立したい。